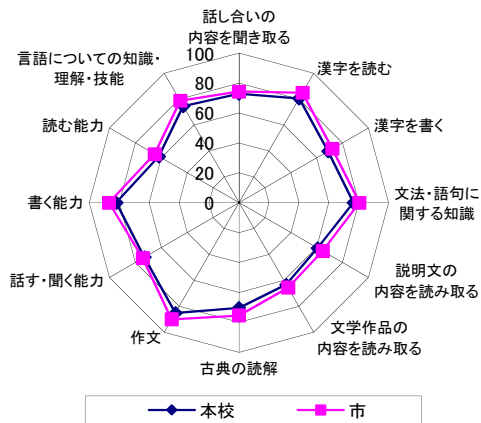


宇都宮市立陽東中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	73.0	74.3
	漢字を読む	80.5	84.9
	漢字を書く	68.8	72.1
	文法・語句に関する知識	76.6	80.5
	説明文の内容を読み取る	60.7	64.6
	文学作品の内容を読み取る	63.2	65.6
	古典の読解	70.3	75.3
	作文	85.0	90.0
観点別	話す・聞く能力	73.0	74.3
	書く能力	82.0	86.8
	読む能力	61.8	65.1
	言語についての知識・理解・技能	74.5	78.6



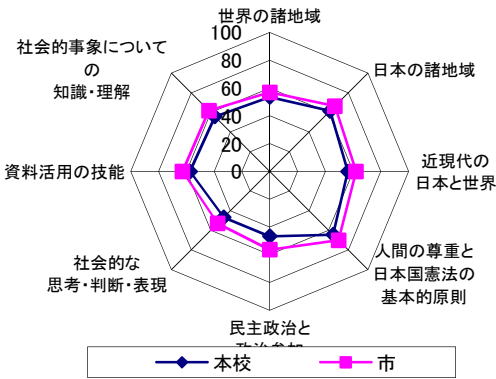
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	宇都宮市全体の平均を、1. 3ポイント下回った結果となった。昨年度のこの学年の、宇都宮市平均との差は2. 5ポイントのため、1. 2ポイント向上した結果となった。	聞き取り活動では、メモを取りながら、大切なことを整理していく能力が問われる。問題演習のトレーニングをしていく一方、これからの学習の中で、ペアを組んで意見交換したり、グループでの話し合い活動を行ったりしながら、言語活動として積極的に話したり、聞いたりする場面がますます必要になる。また、日常生活の中でも集会時等に、より集中して話を聞くことが求められる。
漢字	漢字の読みは、宇都宮市全体の平均から4. 4ポイント下回る結果となった。書き取り分野の問題では、市平均を3. 3ポイント下回る結果となった。	漢字は書くことの基本となる。作文の観点も市の平均を下回っていることから、書くことには時間をかけていく必要がある。ノートやワークシートの記入をする時などの、実際に漢字を書く機会に、指導を行う必要がある。特に、漢字ミニテストや熟語の反復練習を行うことで、力を付けさせたい。また、類義語・対義語を対として学んだり、同音異義語・同訓異字語の学習で語彙を増やしたりする機会を設けることも必要である。
文法・語句に関する知識	宇都宮市全体の平均から3. 9ポイント下回る結果となった。文法の問いに対しては、特に個人により理解度が大きく開いている。	文法や語句の単元は、徐々に積み上げていく学習である。1、2年生での学習を反復することが必要である。そこで、3年生までの言語事項の学習を終えた視点で総復習を行う。それにより、補強しなければならない領域がはっきりし、効果が高まるようねらっていく。また、簡単にあきらめたりしないように、空欄を作らないという指導をしていく。
説明文の内容を読み取る	宇都宮市全体の平均から3. 9ポイント下回った。内容の読み取りが浅い解答や解答の仕方では得点にならないケースが多く見られた。	問題を正確に読み取り、問いに対する答えを正確に書くということの演習問題をさらに取り入れていく。また、説明的文章の読解には、その基本となる言葉の意味の解釈が必要であることを伝えるとともに、この文章で表現されるような「質の高い読書」の一環として、説明文を分析的に読む習慣を持たせることが必要である。新聞記事を読むことや、ベストセラーに紹介されるような説明文を手にするなど、論理的文章に触れる機会を作りたい。
文学作品の内容を読み取る	宇都宮市全体の平均から2. 4ポイント下回った。特に心情を理解し、書く分野の出題では、正答率が低くなる傾向が見られた。	文学的文章の読解の中でも、心情を理解するための根拠となる表現を押さえ、そこからどのような心情が読み取れるか論理的に考える指導を行う。また、読書の指導を行うことで、より多くの文学作品に生徒が触れ、読書に親しむ機会を設ける必要がある。
古典の読解	宇都宮市全体の平均から5. 0ポイント下回った。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すなどの基本的な問題はできるものの、内容を理解する問題の正答率が低くなる傾向が見られた。	内容を理解するためには、古典ばかりでなく、広く様々な文学作品に触れておくことが大切である。読書の幅を広げていく必要がある。また、内容を理解するための鍵となる、助詞や助動詞をどう訳すのかということを、問題演習を通して、考えていく力を身に付けさせたい。
作文	宇都宮市全体の平均から5. 0ポイント下回る結果となった。全体としては、設問に対して無回答率が高く、設問に取り組んだ生徒はほぼ減点されてはいない。	作文が書けない生徒に、自分の意見を書くことについて、あきらめずに取り組むことを伝える。文章が仮に減点されても、まず書くということから自信をつけさせていく。また、指導の中に短作文に取り組む学習を組むことで、文章を書くことに慣れさせ、さらに字数の多い作文表現に取り組めるような工夫をしたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の諸地域	53.5	56.9
	日本の諸地域	61.5	66.4
	近現代の日本と世界	56.3	62.1
	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	64.5	70.1
	民主政治と政治参加	46.7	56.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	46.8	53.0
	資料活用 of 技能	57.4	62.7
	社会的事象についての知識・理解	55.8	61.9



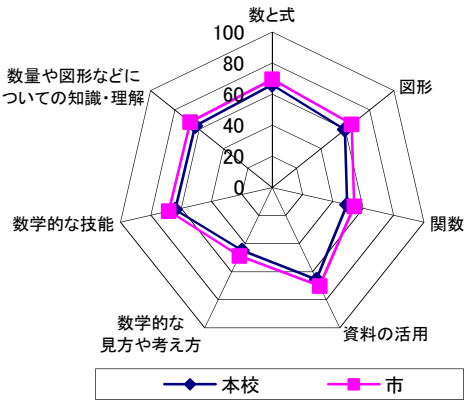
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の諸地域	・宇都宮市と比べると、3.4ポイント低い。内容を分析してみると、資料を読み取って解答を記述する問題が市の正答率に比べて、4.2ポイント低い。全国の平均と比較しても、5.3ポイント低く、資料を読み取って解答を記述する問題を苦手としている生徒が多いようである。	・普段の授業の中で、地図資料や統計資料などを多く用いて、特色や分かることを読み取る活動を取り入れる。 ・記述力を身に付けさせるために、普段の授業の中で地理用語の意味などを記述させる活動を取り入れていく。また、定期テストなどで、解答を短文で記述させるような問題を多く出題していく。
	日本の諸地域	・宇都宮市と比べると、4.9ポイント低い。内容を分析してみると、北陸地方の雨温図や中京工業地帯の工業製品出荷額割合のグラフを読み取る問題の正答率は比較的ポイントが高いが、長野県の農業の特色を問う問題の正答率が49.2%と、他の問題よりも大きく低い。日本の各県の農業の特色について、理解が不足していることが考えられる。	・日本の諸地域については、世界の諸地域に比べ、自然環境や産業の特色など、イメージしやすく理解しやすい分野である。また、小学校においても、日本各地の農業や工業、産業の特色については学習をしているので、今後の授業の中で既存の知識を引き出しながら、各県の農業の特色について深く掘り下げ、ノートにまとめさせるなどして理解を深めていく。
歴史	近現代の日本と世界	・宇都宮市と比べると、5.8ポイント低い。内容を分析してみると、第一次世界大戦後の日本の社会運動についての問題が34.0%となっており、労働運動や社会主義の活動、差別からの解放運動や女性差別からの解放運動など、大正時代の社会運動についての学習が不足していることが考えられる。	・大正時代の民衆運動や労働運動、農民運動の内容については、生徒たちの興味・関心を高めることが難しい単元である。なぜ社会運動が広まっていたのかを時代背景とともに丁寧に説明していくとともに、これらの社会運動が後の日本の歴史にどのように関わっていくのかについて、資料集などを活用して調べさせる活動を取り入れていく。
公民	人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	・宇都宮市と比べると、5.6ポイント低い。内容を分析してみると、フランス人権宣言の内容を問う問題の正答率が90.0%と高く、歴史での既存の知識が生かされていると考えられる。しかし、日本国憲法の改正手続きの問題については、市の平均を15.6ポイント下回っている。憲法改正について理解が不足していることが分かる。	・憲法改正の手続きについては、国会での発議に必要な賛成数などを覚えたり、改正までの流れを理解する必要があるが、生徒にとっては知識として理解するまでに、時間を要する内容である。憲法改正については、まさに今、国会で議論が行われている状況なので、授業において、新聞やニュース映像などを活用し、時事問題としてとらえさせていく。
	民主政治と政治参加	・宇都宮市と比べると、9.7ポイント低い。内容を分析してみると、小選挙区制についての理解をもとに選挙をシミュレーションする問題の正答率が29.6%という低い結果となっている。小選挙区制の特色を問う問題については、34.4%で市の平均を0.6ポイント上回っているものの、決して高い正答率とはいえない状況である。	・政治分野については、国会や内閣といった、生徒たちにとって関わりが薄く、興味・関心を持ちにくい内容である。しかし、選挙のしくみなどについては将来、必ず関わりをもつ内容であるのでしっかりと理解させる必要がある。授業において、生徒会役員選挙や委員会活動など、生徒たちにとって身近な例を取り上げて、選挙や国会の仕事を比較させる活動を行い、理解を深めさせていく。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	66.0	69.6
	図形	59.7	65.2
	関数	49.4	54.1
	資料の活用	65.6	70.3
観点別	数学的な見方や考え方	44.8	48.7
	数学的な技能	63.9	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	63.4	67.5



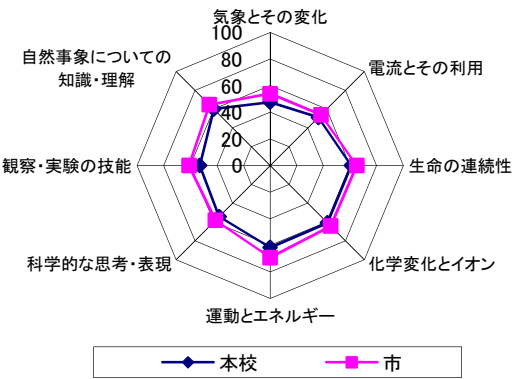
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と比べると、3.6ポイント(昨年度は4.8ポイント)低い。内容を分析してみると、2次方程式において「解の意味を理解している」が宇都宮市に比べて6.1ポイント高いのに対して、「2次方程式の計算」については宇都宮市に比べて3～7ポイント低くなっている。2次方程式では、因数分解を利用した計算はできるが、解の公式を使った計算は苦手であることが分かる。継続的な計算練習が不足していることが考えられる。	・乗法公式を利用した展開や因数分解の計算練習を継続的に入れていきたい。 ・平方根の計算については、平方根の意味も含めた指導をしていきたい。 ・2次方程式については、解の公式を中心に計算練習を入れていきたい。
図形	・宇都宮市と比べると、5.5ポイント(昨年度は10.5ポイント)低い。内容を分析してみると、「図形の性質と証明」が極端に低いことが分かる。二等辺三角形の性質や平行四辺形の性質などの基本的な知識に関する学習内容の復習が不十分であることが考えられる。	・図形の基本的な性質から順を追って説明していくことで、証明問題等で活用できることに重点をおいて指導していくことで、理解を確かなものにしていきたい。 ・学習後も繰り返し学習するし、定着をはかるために復習問題を提供するなど、課題提示の仕方も工夫していきたい。
関数	・宇都宮市と比べると、4.7ポイント(昨年度は6.6ポイント)低い。内容を分析してみると、「グラフを読み取ること」が6.3ポイント、「y座標からグラフ上の点の座標を求めること」が8.6ポイント低いことがわかる。グラフ上で点を読み取ることの理解が不足していると考えられる。	・関数における用語は、式・表・グラフのそれぞれの中での意味や役割を理解していくことが大切である。昨年に引き続き、この3つの関連性を、授業の中で指導する場面を意図的に設けていくよう心がけていきたい。 ・グラフのかき方については、表からイメージさせることにより点の動き方をわかりやすく理解させたり、傾きと切片のグラフ上での意味をよく確認しながら、反復練習をさせていきたい。
資料の活用	・宇都宮市と比べると、4.7ポイント(昨年度は12.7ポイント)低い。内容を分析してみると、確率の中で一番の基本になると思われる「5個の球から1個取り出したときの確率を求めること」が6.5ポイント低く、資料の整理の中の問題で一番差が大きいことが分かる。「確率」に関する基本的な学習内容の理解・定着が不十分であることが考えられる。	・確率の意味を再確認させるとともに、基本的な計算を繰り返し練習する場面を取り入れていきたい。 ・確率を求める中での樹形図や表の使い方の確認も合わせて指導していきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	47.7	54.0
	電流とその利用	51.1	53.8
	生命の連続性	61.0	65.0
	化学変化とイオン	60.9	64.2
	運動とエネルギー	61.5	69.2
観点別	科学的な思考・表現	54.3	58.2
	観察・実験の技能	53.0	61.1
	自然事象についての知識・理解	60.0	64.6



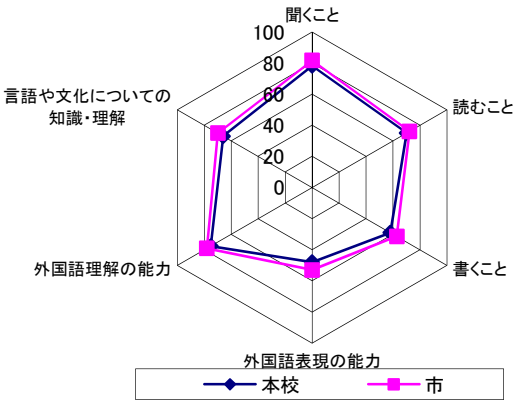
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	・宇都宮市と比べると、6.3ポイント低い。内容を分析してみると、資料を読み取って解答を考える問題が市の正答率に比べて、10ポイント程度低い。全国の平均と比較しても、低く、資料を読み取って考察する問題を苦手としている生徒が多いようである。	・普段の授業の中で、地図資料や統計資料などを多く用いて、特色や分かることを考察するようにさせる。 ・事象に対する考察力を身に付けさせるために、新聞の天気図などを使い、リアルタイムのデータを活用した授業の展開を行う。また、定期テストなどで、理由を考えるような問題を多く出題していく。
電流とその利用	・宇都宮市と比べると、2.7ポイント低い。内容を分析してみると、計算による値を求める問題には市の正答率に比べて高いポイントとなっている。反面、実験方法を問う問題や、磁界から受ける力を利用した器具を指摘する問題は低いポイントとなっている。	・日本の産業は技術力の発達による電気機器の利用によって支えられてきたことを指摘し、そのためにはどのような工夫が必要であったかを考察する事が不可欠である。その上で、オームの法則の利用や、磁界における電流に対する力の関係を指導する。
生命の連続性	・宇都宮市と比べると、4.0ポイント低い。内容を分析してみると、「遺伝子」と答える問題が49.6%となっており、知識を問う問題に理解が不足していると考えられる。	・自然現象への知識・理解を問う問題である。日常で見られるような内容でなく、顕微鏡を使用し観察することで得られる知識や、組み合わせをシミュレーションする内容なので、正確な観察を意識させ、いろいろなパターンにおける結果を考える力を養わせたい。
化学変化とイオン	・宇都宮市と比べると、3.3ポイント低い。内容を分析してみると、水溶液中を電流が流れるためには電解質が必要であるととらえられている生徒は宇都宮市と比べると少々高いポイントとなっている。その名称を答える「電解質」という語を覚えていない生徒が多かった。	・物質のつくりを原子から考え、電子のはたらきによってイオンという考えを導く単元である。イオンの状態を考えることにより、科学的に物質の性質や化学変化を考察させたい。イオンの性質は良く学習しているが、名称を答える問題には努力が必要である。事象と言葉をしっかりと学習する必要がある。
運動とエネルギー	・宇都宮市と比べると、7.7ポイント低い。内容を分析してみると、「記録テープに記録されているデータを処理し、台車の平均の速さを求める」という値が宇都宮市の正答率に比べると8.1ポイント低い。物理的に数字をとら、式を組み立てることに努力が必要と考えられる。	・物事を物理的に考えるためには、単に計算式に当てはめるだけの学習ではいけない。式の意味や、つながりを考え、順を追って追究することが必要とされる。授業においても、式を組み立てることから指導していく必要がある。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	78.2	81.7
	読むこと	70.0	72.2
	書くこと	58.0	62.8
観点別	外国語表現の能力	47.9	53.0
	外国語理解の能力	75.2	78.1
	言語や文化についての知識・理解	66.1	70.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・宇都宮市と比べると、3.5ポイント低い。内容を分析してみると、英文の要点を聞き取り英語で答える問題で7.3ポイント、対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題で4.3ポイント、対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では5.2ポイントと特に市の平均を下回っていることがわかる。聞き取った内容に対して英語で答える問題に関しては無解答率が37.1と書くことと関連した問題に対しての消極性がみられた。	・普段の授業の中で、まとまった英文を聞かせ、内容の要点を聞き取るような活動を取り入れる。 ・英問英答の力を身に付けさせるために、テストの際だけではなく、普段の授業の中にも英語で質問をし、答えを英語で書かせる活動も入れていきたい。
読むこと	・宇都宮市と比べると、2.2ポイント低い。内容を分析してみると、代名詞が指している内容を把握する問題が6.1ポイント、受け身の語形・語法を理解する問題が4.5ポイント低いことがわかる。読むことの問題の全体を通してみると、まとまった文をよみ、内容理解が問われる問題での正答率が低いことがわかる。	・基本文型となる英文の定着を図るよう、繰り返し文型の練習を行う。まとまった長い文章を読む時には、分からない文型や語があっても、読み進める指導をしていく。 ・授業で学習した後も繰り返し学習し、学習内容の定着を目指し、課題の工夫もしていきたい。
書くこと	・宇都宮市と比べると、4.8ポイント低い。内容を分析してみると、単語の並べ替えによる英作文の問題で10.7ポイント、正しく単語を書く問題で7.1ポイント低いことがわかる。聞くこと、読むことの領域と比べると無解答率も高く、英文を書く力が不十分だと考えられる。	・語彙力を増やすとともに既習の文法や語法を使って、英文を書くことができるよう、まずは基本的な内容の定着を図る。 ・授業の中で書く活動を取り入れ、生徒が書いた英文の添削をするなどして、正しい英文が書けるようにする。 ・積極的に英語で文を書くことができるよう、まずは書きたい内容のイメージを日本語で書かせ、英文に直す指導をしていきたい。